

特別展「蔦屋重三郎 コンテンツビジネスの風雲児」

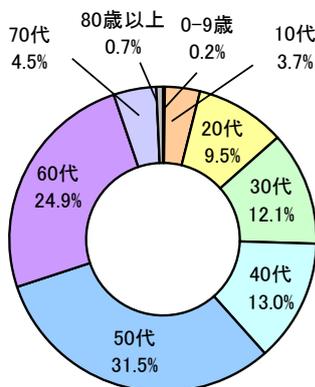
アンケート集計結果

令和7年4月22日（火）～6月15日（日）（49日間）

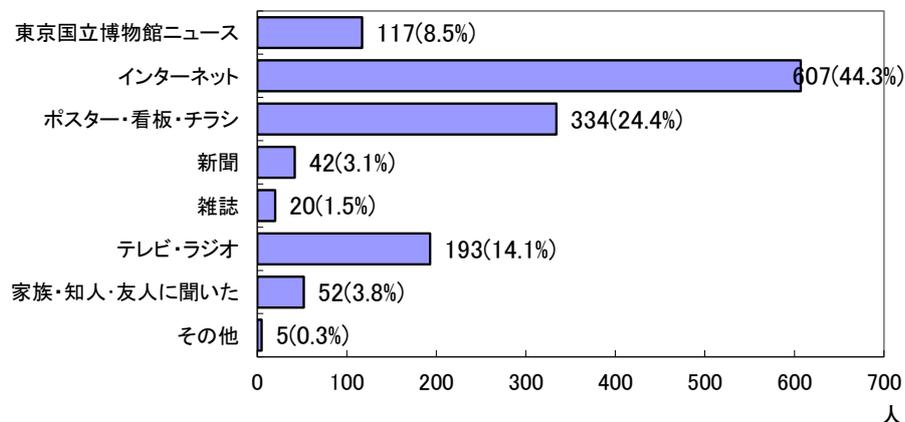
総入館者数：211,037人

回答者数：1,192人

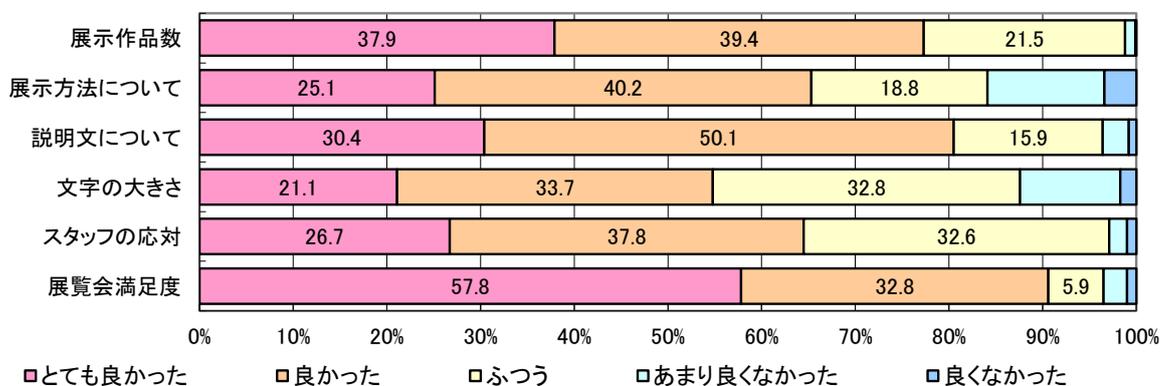
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・混雑していたが充実した展示だった
- ・人が多すぎて、作品や解説が見えづらい時があった
- ・有名な浮世絵の数々やポップンを吹く娘を見られてよかった
- ・江戸時代の再現コーナーがよかった
- ・大河ドラマとの連動企画がよかった
- ・音声ガイドがよかった

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品数	1.1	0.1
展示方法	12.5	3.4
説明文	2.8	0.8
文字サイズ	10.7	1.7
スタッフの対応	1.9	1.0
展覧会の満足度	2.5	1.0

(%)

本展は、江戸時代の傑出した出版業者である蔦重こと蔦屋重三郎を主軸とし、喜多川歌麿・東洲斎写楽といった名だたる浮世絵師の絵画の数々や蔦重のプロデュースした作品等を通じて当時の出版や文化を総覧するとともに、大河ドラマ「べらぼう」とも連携した吉原大門のセットや蔦重の本屋・耕書堂を再現した江戸の街エリアなど、当時の様相を体感できるものとなりました。

本展覧会に関連する調査のなかで喜多川歌麿の「婦人相学十躰 ポップンを吹く娘」の初期作品が確認され、後期より展示開始となったことも、大きな話題を呼びました。

自由記述の中でも大河ドラマがきっかけで浮世絵に興味を持った・本展に来場したとの声が目立ち、「初めて」来館したという回答が32%と、コロナ禍後の特別展でもかなり高い割合となりました。「大河ドラマをきっかけに来て本物の作品を見られ、江戸の文化を味わえて良かった」といった感想が高い評価につながったとみられます。

多数の来館者をお迎えする一方で、展示構成のうち小さいサイズの絵画や書跡が多くを占めていたこともあり、「混雑している状況では見づらい作品もあった」といった声も寄せられました。こういったジャンルの作品の混雑下での展示方法や展覧会の運営については今後も改良に向け検討を続けます。

今回お寄せいただいたご意見ご感想も参考に、引き続きよりよい展示に努めてまいります。